

自己点検・評価シート（学科・専攻・部署等）の「参照基準」「学士力考察」について

1. 大学教育の分野別質保障のための教育課程編成上の参照基準（日本学術会議による）

①自己点検・評価（学科・専攻・部署等）の5. I. (2)

教育目標・学位授与方針と整合性があり、関係する学問分野における分野別質保障のための参照基準（日本学術会議）を適切に取り入れた教育課程の編成・実施方針の明示

②リンク先

- ・日本学術会議 「大学教育の分野別質保証委員会」
<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/daigakuhosyo/daigakuhosyo.html>
- ・本学ホームページ>FD サイト>お役立ち情報>リンク先に掲載
「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準（日本学術会議）等」
- ・本学ホームページ>FD サイト>資料>FD>内部質保証関連に掲載（新設予定）

③本学で関係すると思われる学問分野（総合基礎教育を含む）

社会福祉学
心理学
経営学
政治学
法学
社会学
言語・文学
歴史学
文化人類学
生物学
地域研究
経済学
地理学
数理科学
地球惑星科学

※分野別の教育課程編成上の参照基準とは

（「大学教育の分野別質保証について」日本学術会議大学教育の分野別質保証推進委員会 委員長 北原和夫、2012年5月より抜粋）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/015/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2012/05/15/1321061_1.pdf

◎「学士力」を、教養教育とともに専門分野の教育を通じて学生に身に付けさせる

- ◆ 「モデルカリキュラム」や「最低到達度」のような画一的・外形的な基準ではなく、そうしたもののさらに上流に位置する各分野の学びの本質に遡って、学生が何を身に付けるべきかを明らかにする。
- ◆ 単なる現状の教育の最大公約数的なものではなく、今までの教育の在り方への反省や、今後の社会の姿も見据えた、未来志向の教育像を提案する。
- ◆ これらを通じて各大学の教育改善を支援するとともに、各分野の教育の意義に関する大学と社会との共通理解の形成を図る。
- ◆ 教養教育の尊重
専門教育の立場だけから学士課程教育を設計しない → 内容の精選

2. 各分野における学士力の考察（私立大学情報教育協会による）

①自己点検・評価（学科・専攻・部署等）の5. II. (2)

関係する学問分野の教育における学士力の考察（私立大学情報教育協会）の内容を考慮した、学士課程教育に相応しい教育内容の提供

②リンク先

- ・私立大学情報教育協会 「本協会による分野別教育『学士力考察』の報告・提言について」
<http://www.juce.jp/gakushiryoku/2009/index.html>
- ・私立大学情報教育協会 「情報教育研究委員会 学士力の考察」（情報通信系教育、情報コンテンツ・サービス系教育）
<http://www.juce.jp/edu-kenkyu/02.html>
- ・本学ホームページ>FD サイト>お役立ち情報>リンク先に掲載
「分野別教育『学士力考察』」
- ・本学ホームページ>FD サイト>資料>FD>内部質保証関連に掲載（新設予定）

③本学で関係すると思われる学問分野（総合基礎教育を含む）

社会福祉学教育における学士力
心理学教育における学士力
経営学教育における学士力
教育学教育における学士力
情報通信系教育における学士力
情報コンテンツ・サービス系教育における学士力
政治学教育における学士力
法学教育における学士力
社会学教育における学士力
英語教育における学士力
コミュニケーション関係学教育における学士力
美術・デザイン教育における学士力
国際関係学教育における学士力
統計学教育における学士力
体育学教育における学士力
生物学教育における学士力
数学教育における学士力
物理学教育における学士力
化学教育における学士力
経済学教育における学士力
栄養学教育における学士力

【参考】「大学教育の分野別質保証について」（日本学術会議 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 質保証の枠組み検討分科会幹事 日本大学文理学部教授 広田照幸）より抜粋

http://www.juaa.or.jp/images/publication/pdf/symposium/h22_01_03.pdf#search=%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E5%9F%BA%E6%BA%96%E5%8D%94%E4%BC%9A+%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%AD%A6%E8%A1%93%E4%BC%9A%E8%AD%B0+%E5%8F%82%E7%85%A7%E5%9F%BA%E6%BA%96

①分野別の質保証の基本的な考え方

- 大学は、各分野の教育課程について、具体的な学習目標を同定し、その学習目標を実現するという観点から実際のカリキュラムを編成すべき
- 学習目標は、学習者としての学生の視点に立って、何を身に付けるのかを具体的に明らかにすべき
- 最も基本的な意味での「教育の質の保証」のサイクル
- 各学問分野の特性 and 各大学の理念と現実
 - 具体的な学習目標
 - 学習内容、学習方法、学習成果の評価方法
 - カリキュラム
 - (以上のサイクル全体の検証)

②日本学術会議が策定する、分野別の教育課程編成上の参照基準（内容）

1. 各分野の特性（理念・哲学、方法論）の明文化
 2. すべての学生が身に付けることを目指すべき「基本的な素養」の同定
 - ・ 基本的な知識と理解
 - ・ 基本的な能力（分野に固有の能力、一般的に活用可能な能力）

→ 各大学独自の具体的な学習目標
- ※ 各大学で柔軟に展開できるよう、普遍性を備えた幅のある概念として記述
3. 学習内容・学習方法・学習成果の評価方法の例示
- ※ 各大学の教育課程の多様性を否定しないよう、限定的に記述

③すべての学生が身に付けることを目指すべき基本的な素養

- ◆ 基本的な知識と理解
- ◆ 基本的な能力：「～ができる」（分野に固有の能力、一般的に活用可能な能力）
- ◆ 分野の特性を踏まえて、学士課程教育の中核としてすべての学生が身に付けることを目指すべきものを、項目数を絞って同定
- ◆ それぞれが学生にとってどのような有用性を持つのか、その意義が明確に理解できる形で同定。
- ◆ 職業生活において（直接的な専門能力からジェネリックスキルまで）
- ◆ 公共的な課題に関わる市民としての生活において
- ◆ より本源的な意味での人間の人生において
- ◆ 各大学が、それぞれの理念・状況に即して、柔軟に展開できるよう、普遍性を備えた一定の幅のある概念として記述

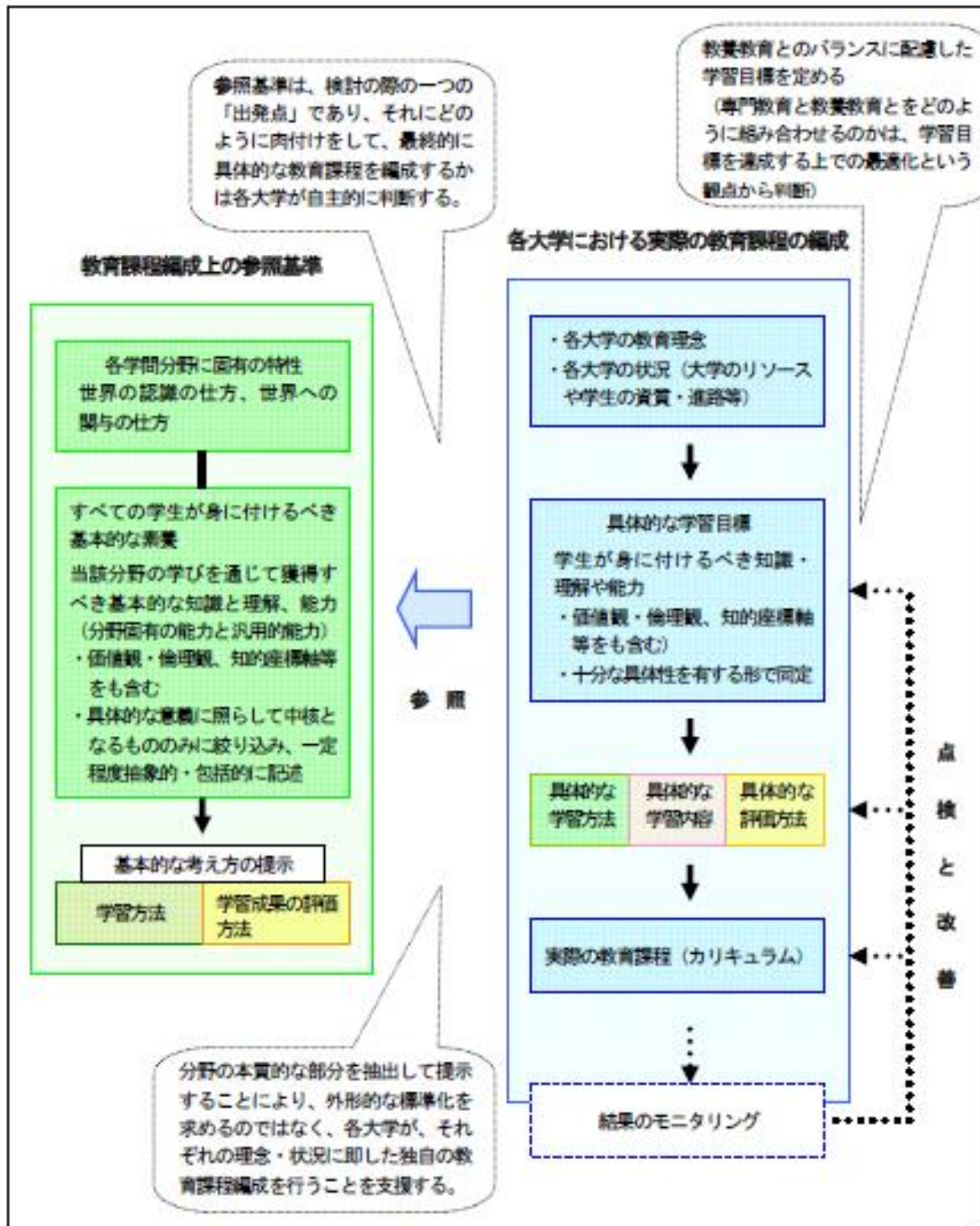
④日本学術会議が策定する、分野別の教育課程編成上の参照基準（策定方針）

- 当面主要な30程度の分野を3年程度の期間をかけて手がける予定
- ◆ 以後も必要に応じて追加を行う。
 - 学際的・複合的な教育課程については、当該課程を構成する「元となる分野」の参照基準を柔軟に組み合わせ活用してもらう。
 - ◆ 新しいカリキュラム編成に関する柔軟さを損なわないためにも、ある程度確立した分野として認知され、系統的なカリキュラムを編成することが十分想定される場合を除き、個別に「分野」としては取り上げない。
 - 各分野における参照基準の策定にあたって
 - ◆ 関連する学協会の参画
 - ◆ 大学の多様性が適切な形で代表されること
 - ◆ 若手教員や職業人、隣接する他分野等からの参画や意見の聴取等

⑤参照基準を活用した各大学での自律的な質保証

- 参照基準が企図するものは、中長期的な視点での各分野の教育内容の改善努力の方向付け
- ※ 必ずしも短期的に実現可能なこととは考えていない
- 例) 学習方法の重要性
- 単に「～を知っている」でなく、「～ができる」力を付けさせる教育の実現
 - 参加型学習を取入れた科目を1つ開設して事足り、ではない。が、しかしそもそも教員が対応できるのか？（現職教員のFDから、あるいは教員採用の改善から始める必要性）
- 参照基準は、大学の教育改善を支援するツールであり、認証評価の基準を補足する「細則」ではない。
- ※ しかし方法は違っても、目指すものは同じ
- 大学横断的に分野別の質保証を支援する体制整備が重要
- ※ 各分野の学協会や、大学横断的なFD団体等との連携が課題

図1 「教育課程編成上の参照基準」と各大学における実際の教育課程の編成の関係



※ 重要なことは、学術会議が策定した参照基準をなぞることではなくて、各大学での教育課程編成において、上記のようなプロセスが実効的に機能していることである。

出典：日本学術会議「回答 大学教育の分野別質保証の在り方について」
<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/daigakuhosyo/daigakuhosyo.html>